

見えてきた、 サーキュラーエコノミー のツボ

サーキュラーエコノミー・広域マルチバリュー
循環研究会 代表

原田幸明

スマホでアンケート

25/4/21CE-MVC研究会シンポジウム

www.menti.com

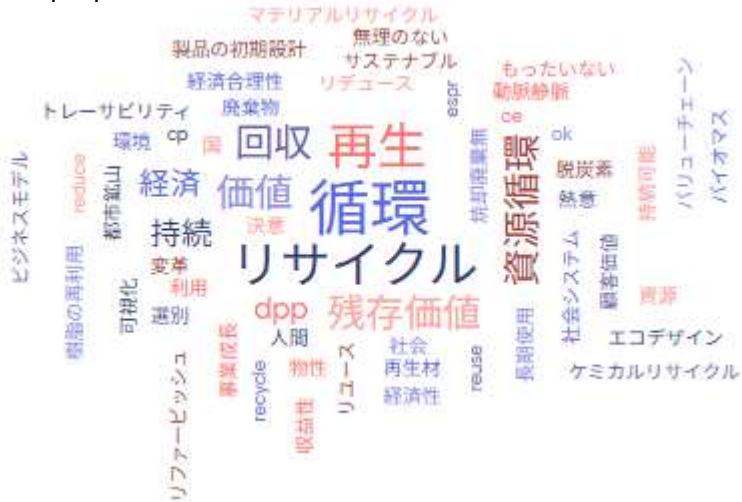
以下のコードを入力

1316 1308



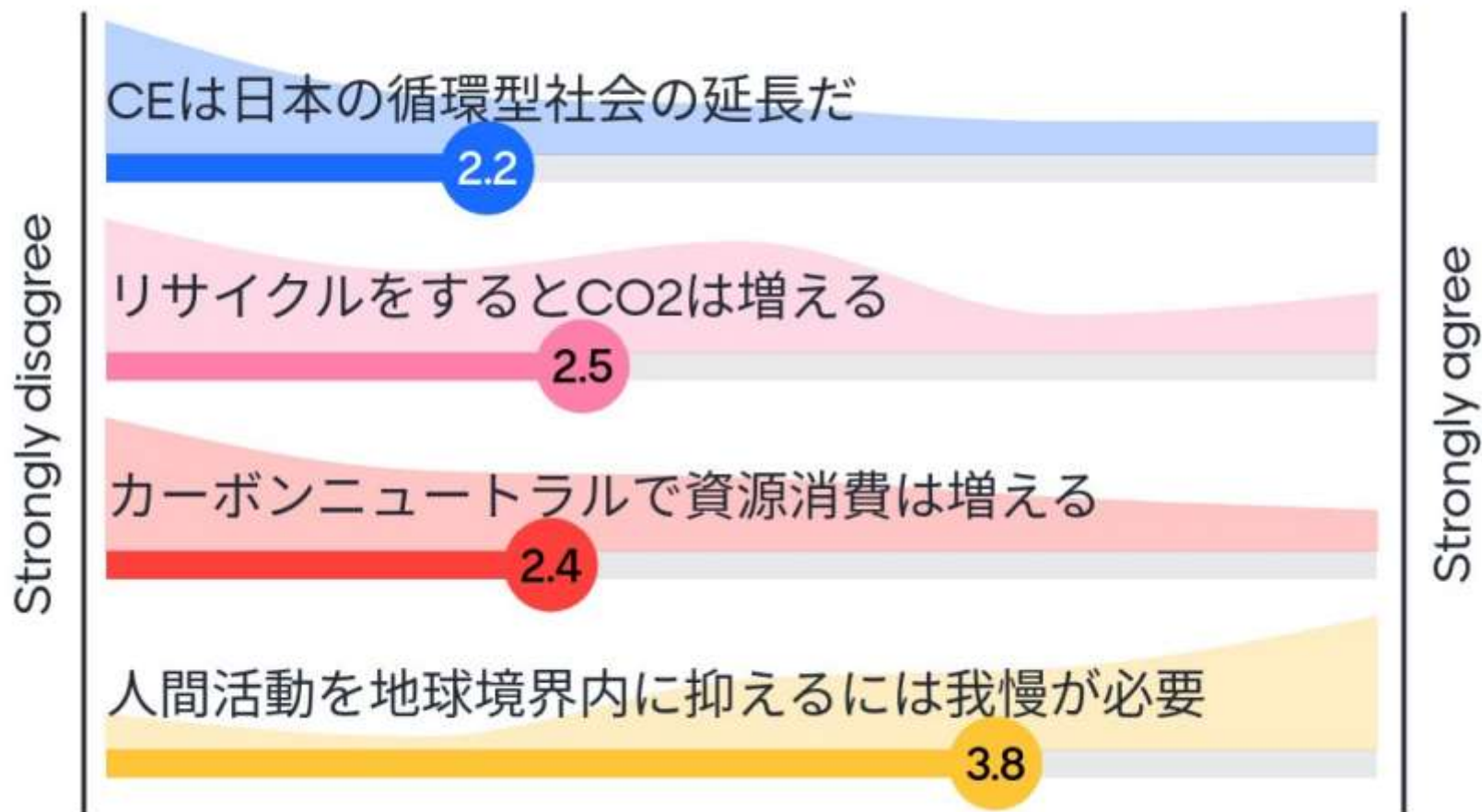
Or use QR code

昨年のシンボ before



after





大量リサイクルでも循環は環境にはよい

CEビジネスはsmall・localになる

CEで拡大するのはリサイクル産業

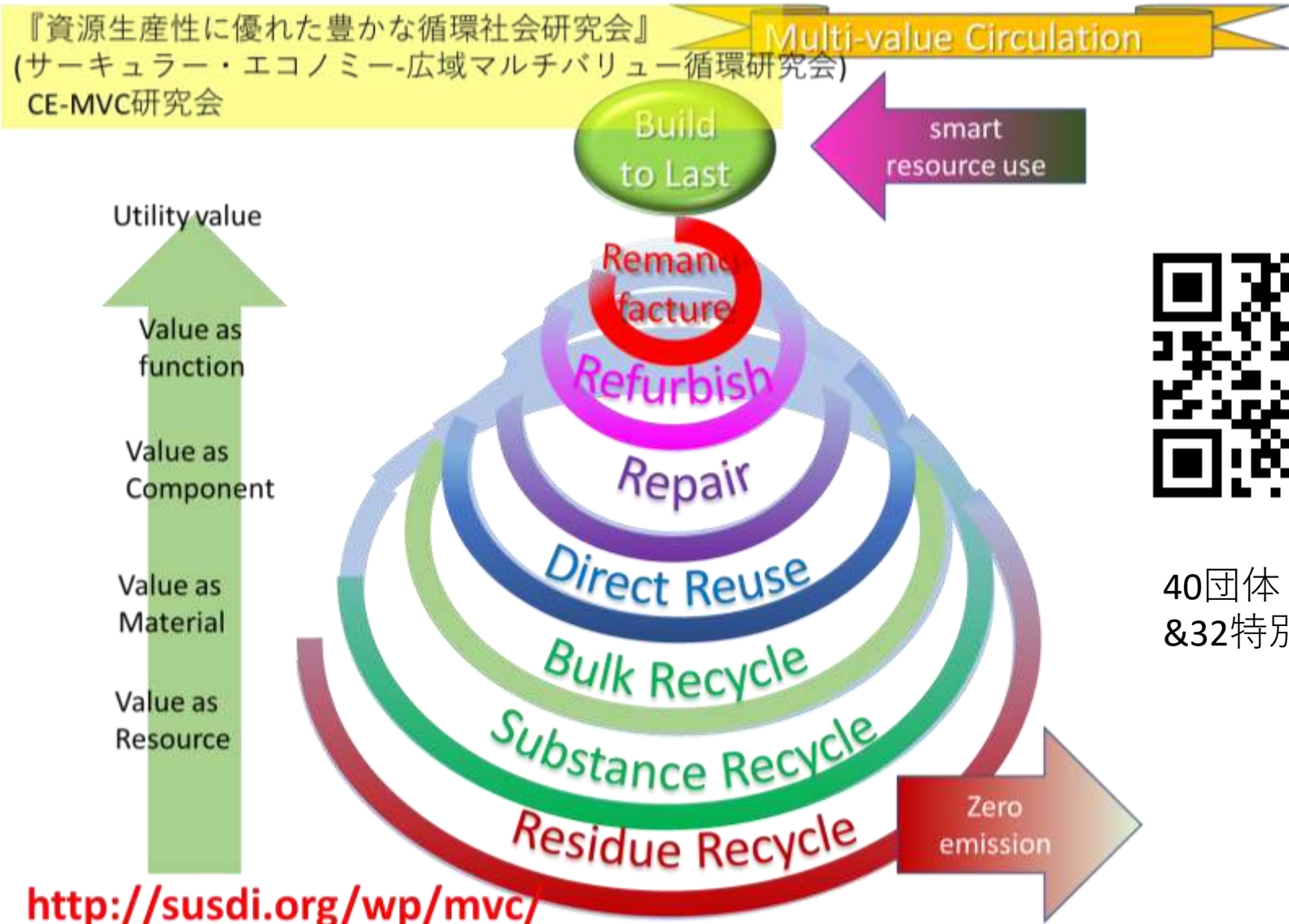
サブスクやシェアはCE?

リファーマービッシュ業の大規模展開は不可能か

年月	取り組み	概要
2020年5月	循環経済ビジョン2020の策定	国内外の資源循環システムの強化と新たなビジネスモデルの構築を目指すビジョンを発表しました。
2022年4月	プラスチック資源循環促進法の施行	プラスチック使用製品の設計から廃棄物の処理段階に至るまでのライフサイクル全般にわたる資源循環の促進を目的とした法律が施行されました。
2022年9月	循環経済工程表の公表	環境省が、 2050年 を見据えた循環経済の方向性と 2030年 に向けた施策の方向性を示す工程表を取りまとめ、公表しました。
2023年3月	成長志向型の資源自律経済戦略の策定	経済産業省が、資源の効率的利用や新たなビジネスモデルの構築を目指し、成長志向型の資源自律経済戦略を打ち出しました。
2024年5月	「再資源化高度化法」策定	環境省が再資源化の高度化のための廃掃法の特例設定とリユースを再資源化の取り組みとして拡張
2024年7月	循環経済に関する関係閣僚会議の設置	循環経済の実現を国家戦略として推進するため、政府全体で戦略的・統合的に取り組むことを目的に設置。
2025年8月	五次循環型社会形成推進基本計画を閣議決定	循環経済への移行を国家戦略として位置付けた上で、重要な方向性を示し、 2030年度 を目標年次とした数値目標
2024年12月	循環経済への移行加速化パッケージの策定	循環経済に関する関係閣僚会議において、循環経済への移行を加速するための具体的な施策パッケージがまとめられた。

サーキュラー・エコノミー&広域マルチバリュー循環研究会

2018年6月21日設立



40団体
&32特別会員

member meetings

- 2024/04/05 #62 C E テーマ別ディスカッションNo1 「バリューネットワークとは何か、それをいかに形成するか」
- 2024/05/27 #63 再資源化高度化法案について
- 2024/06/06 #64 ネイチャーポジティブ
- 2024/07/01 #65 我が社のCE
- 2024/07/10 #66 CEテーマ別ディスカッションNo.2 「バリューネットワークとは何か、それをいかに形成するか」
- 2024/09/11 #67 「再資源化高度化法の活かし方」
- 2024/10/28 #68 ビジネスモデル検討会
- 2024/11/27 #69 「わが社のサーキュラーエコノミー」
- 2024/12/23 #70 「海外情勢」
- 2025/01/07 #71 「私が思うサーキュラーエコノミー」
- 2025/02/12 #72 「サーキュラーエコノミー等指標と標準化動向」
- 2025/02/25 #73 ビジネスモデル検討会 No.4
- 2025/03/03 #75 「動き出す、R&S(リマン、リファービッシュ、レンタル、リペア、シェア、サブスク、サービサイズ)ビジネス」
- 2025/03/25 #74 我が国の新技術開発
- 2025/04/04 #76 「プラスチックリサイクル原料の規格化案」ー プラスチック・マテリアルリサイクル分科会からの提案ー

公開ミニテクニカルプラットフォーム と セミナー

- No8 エコスタッフジャパン
 - No9 ガリウムのリサイクル
 - No10 LCAが変わる! システム境界の任意性からの解放とネイチャーポジティブのためのTMR
-
- 2025/04/03 タクソノミーセミナーIV
 - 2024/07/18 HALADAの資源セミナー「CEのツボと盲点」

ワーキンググループ

- 「資源効率指標WG」
- 「プラスチックの材料リサイクルWG」
- 「タクソミーWG」

情報活動 discussion HPに公開

<https://susdi.org/wp/mvc/category/inf/>

<https://susdi.org/wp/mvc/category/discussion/>

- 2024年度には以下の情報をHPに公開した
- 欧州Critical Raw Materials Act2024 暫定訳と本文 (EU)
- 中華人民共和国の国務院のレアアースの管理に関する規則 (暫定訳)(中国)
- 中国の主要鉱物在庫、用途と世界情勢 (論文) 暫定訳と本文テキスト(中国)
- 米国 重要鉱物整合性法2024 (暫定訳)(米国)
- discussionとして以下のコメントを出した
- 再資源化高度化法について、特に廃掃法の特例とリユースの促進の視点から
- 資源有効利用促進法改定について
- サーキュラーエコノミー会計のススメ

提言活動

- 再生資源高度化法の運用と資源有効利用促進法見直しに関する提言
- プラスチック・マテリアルリサイクル・原料の規格化に関する提言

入会のおすすめ

- メンバーミーティングは会員限定
- 会費 10万円/年
- annual report 購読者優遇 制度あり
annual report (税込み10万円)購入で
総会議決権以外、会員と同等の特典

見えてきた、 サーキュラーエコノミー のツボ

サーキュラーエコノミー・広域マルチバリュー
循環研究会 代表

原田幸明

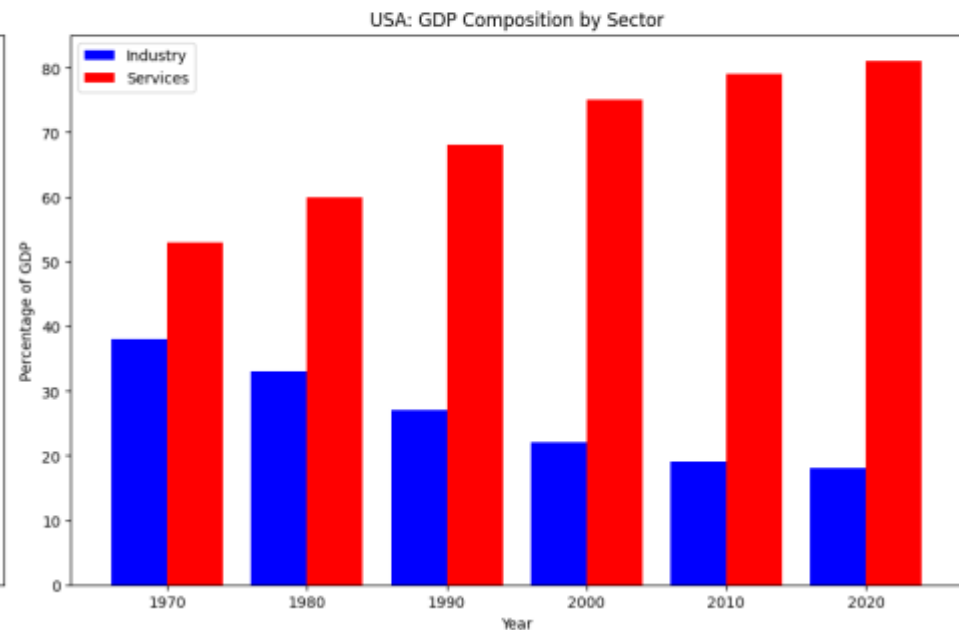
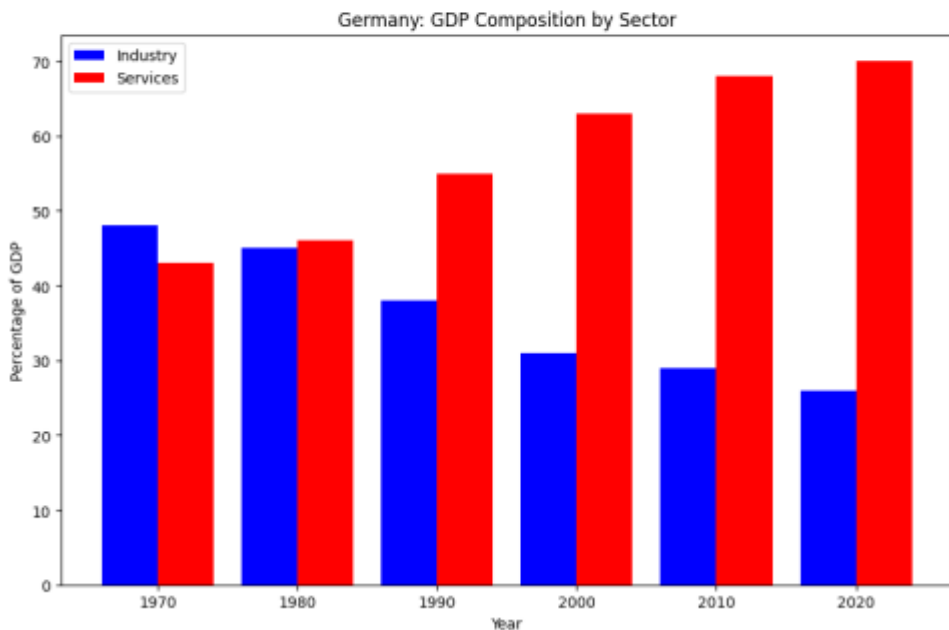
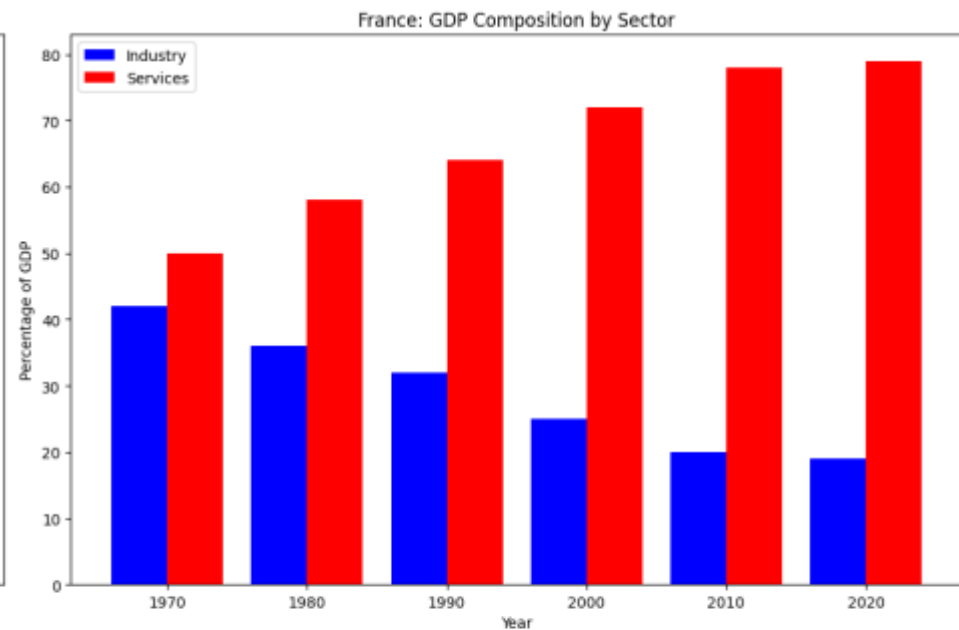
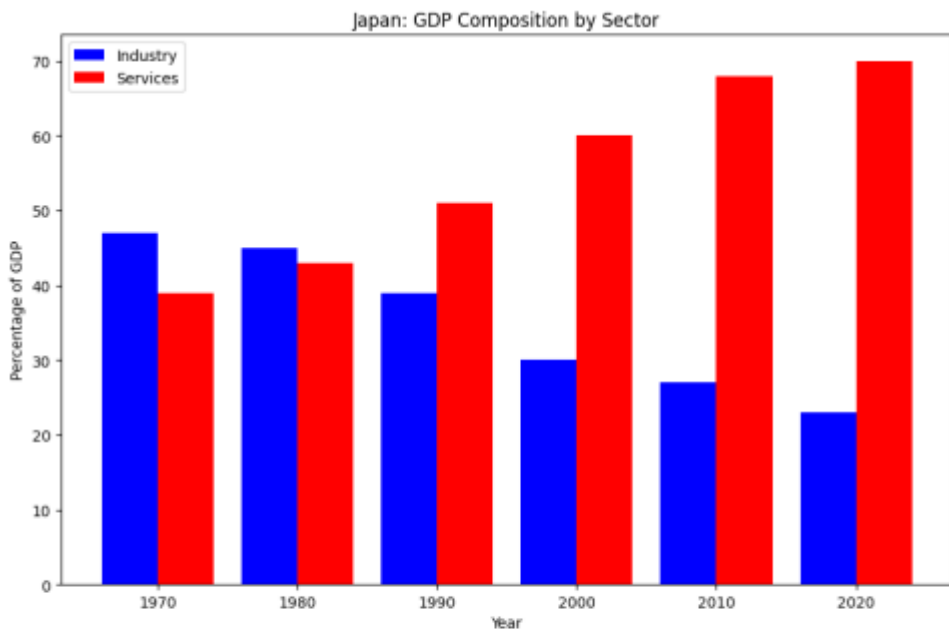
CEの源流

1. 資源の有効利用としてのリサイクル
2. 廃棄物処理としてのリサイクル
3. 大量生産・大量消費からの脱却としてのディマテリアルゼーション(脱物質化)
4. マスプロダクションに限界効用の低下等に見られる産業資本主義の行き詰まり
5. 生産主体が発展途上国に移転した後の旧先進国の経済主体性の確保

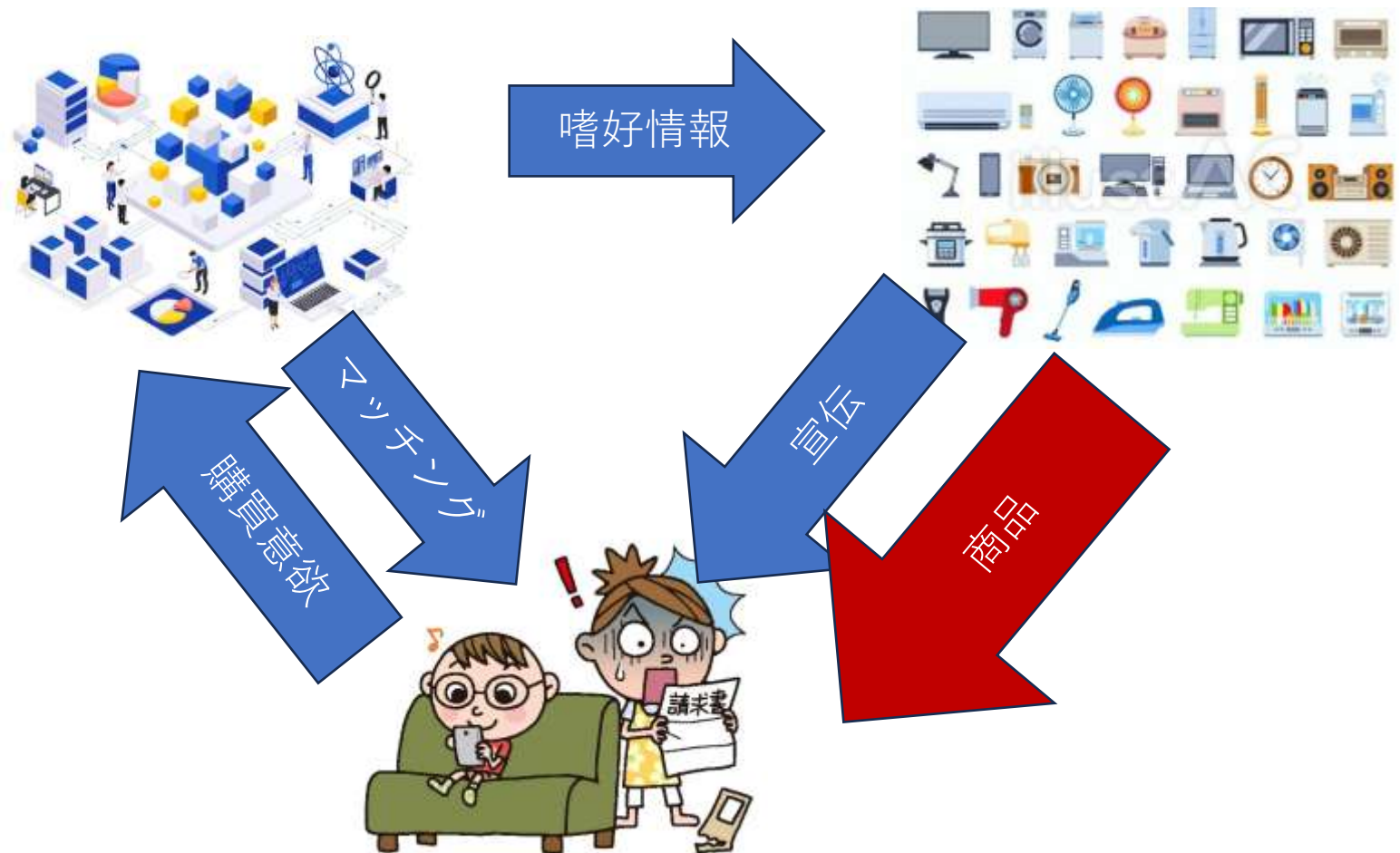
・サーキュラー・エコノミーで 経済は変わるか

経済は変わろうとしており、
それをサステイナブルな方向に持って
いけるかが、
サーキュラー・エコノミー

大量の物売りからサービスへの移行はもう起きてしまっている



GAFAはリニア経済のプラットフォーム



- 「売り」と「買い」を強力に結びつける



サーキュラーエコノミーとは、**生産と消費のモデル**であり、既存の材料や製品をできるだけ長く共有、リース、再利用、修理、改修、リサイクルすることである。このようにして、**製品のライフサイクルが延長**される。

実際には、廃棄物を最小限に抑えることを意味する。製品の寿命が尽きても、リサイクルにより、その材料は可能な限り経済的な範囲にとどめられる。これらは生産的に繰り返し使用することができ、それによってさらなる価値が生み出される。

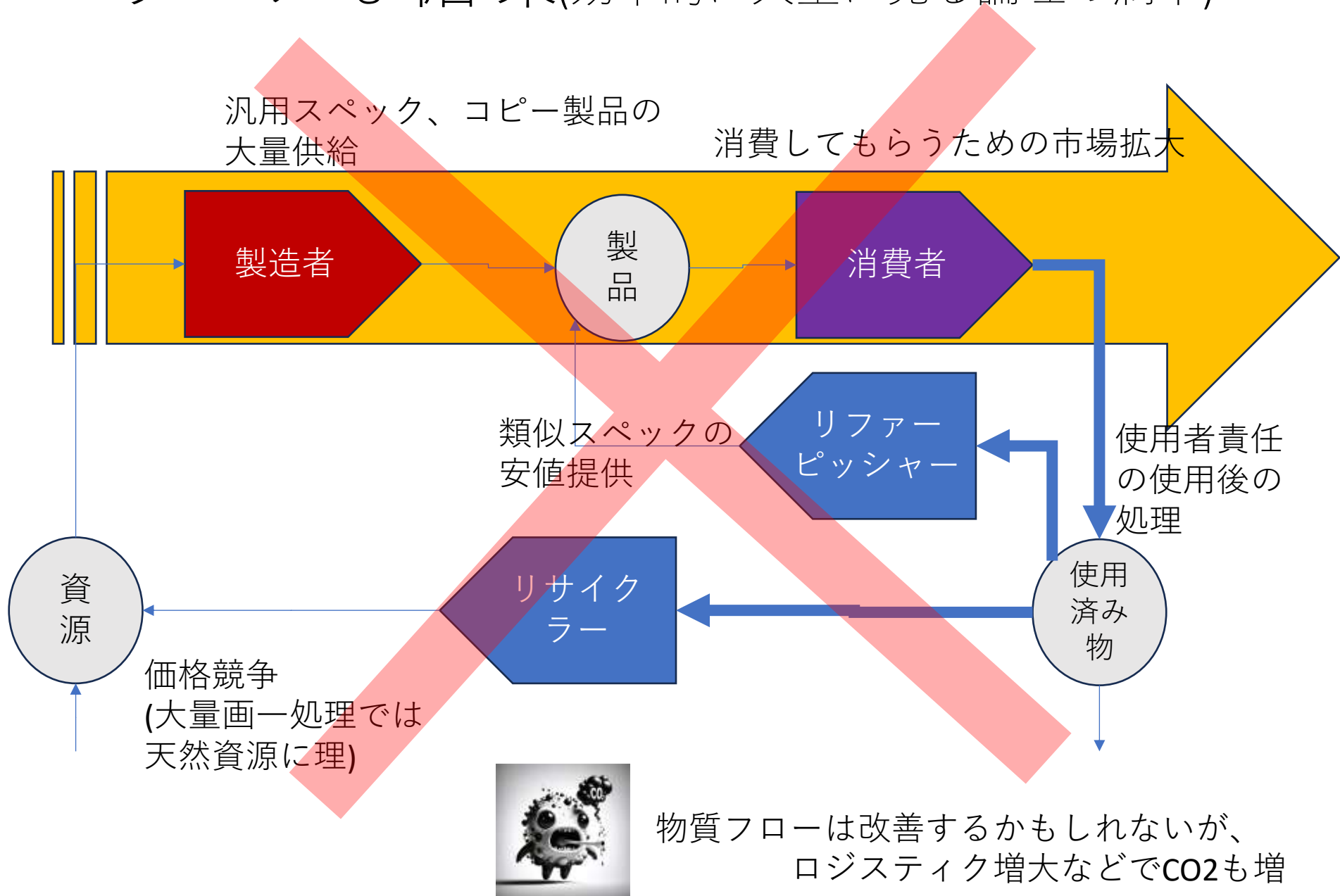
これは、従来の**直線的な経済モデルとは一線を画す**ものである。その従来モデルは、**安価で容易に入手**できる大量の材料とエネルギーに依存している。

モノ/売り→サービスの転換の中で

**モノの役割=フローの改善を訴える
のが
サーキュラーエコノミー**



リニアな循環(効率的に大量に売る論理の渦中)



- 循環

- 残存価値(retained value)

- プラットフォームিং

- サービサイジング

コミュニケーション価値

行動価値(情報価値)

利用価値

機能価値

機構価値

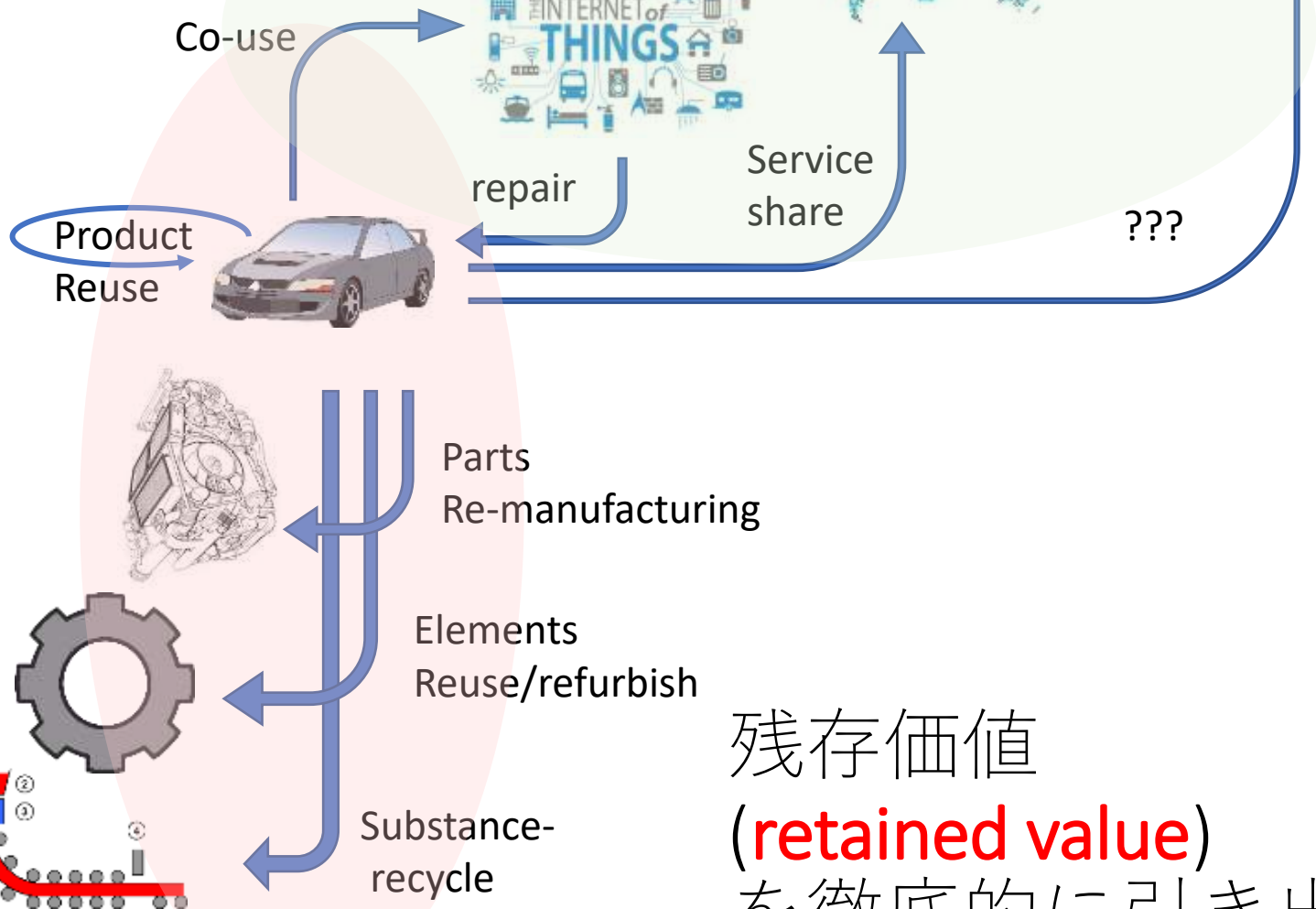
素材価値

資源価値

共同空間経済

IoE

ICT



個人消費/売切経済

残存価値
(retained value)
を徹底的に引き出す

リニアな経済

製造

販売

社会の経済行為

購買価値

なげやり経済

機能
発現

保守

アップグ
レード

廃棄

←-----経済外の個人行為----->

こちらに本来の使用価値

マスプロのた
めの汎用化

機能
発現

廃止

包みこみ
寄添い経済

サーキュラーな経済

製造

提供

使用者レベルまで経済の領域を広げる



経済の主体者

廃止

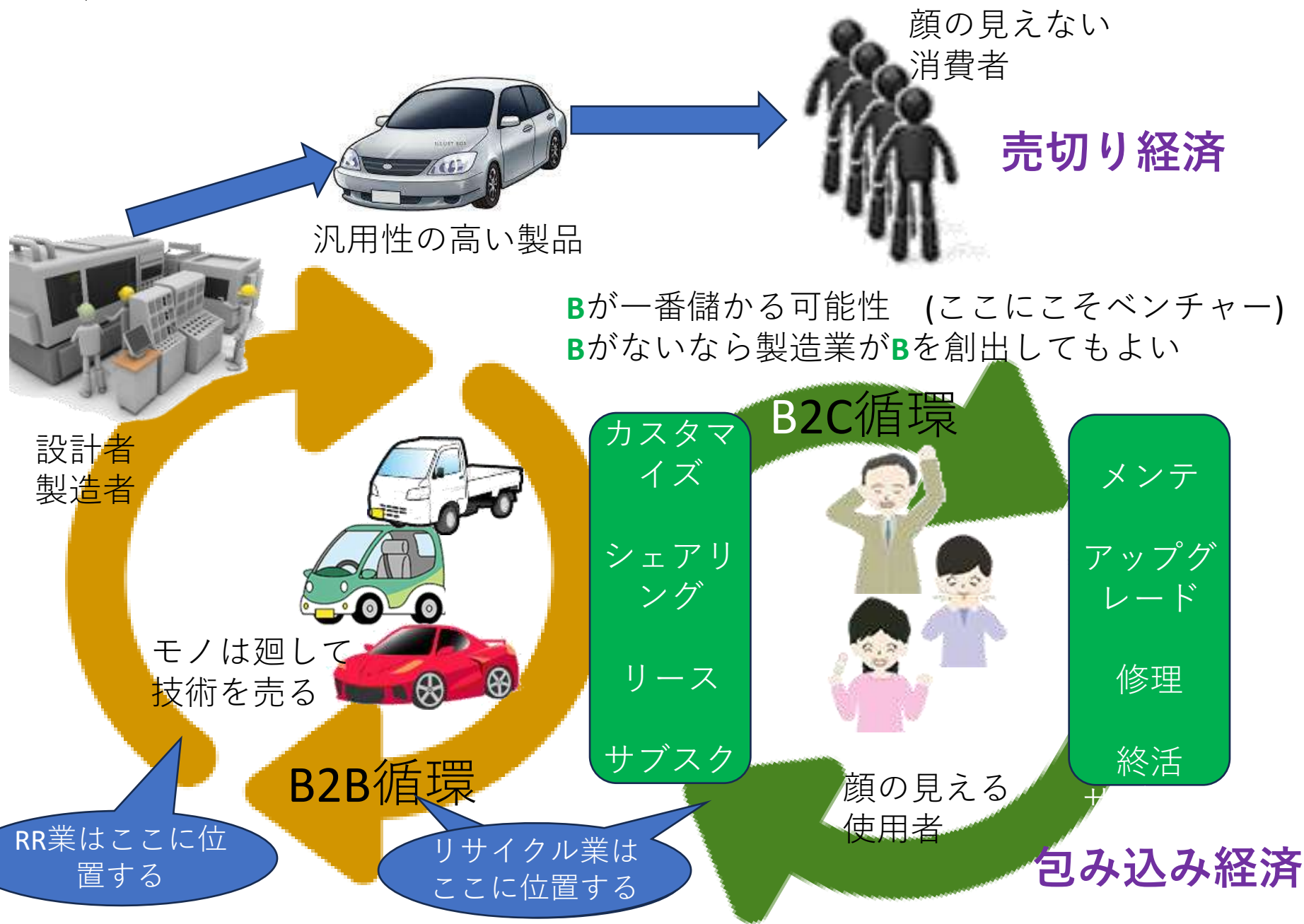
修理
修理
修理

アップグレード

新たな使用者ベ
ースの産業活性のた
めのカスタマイズ
経済

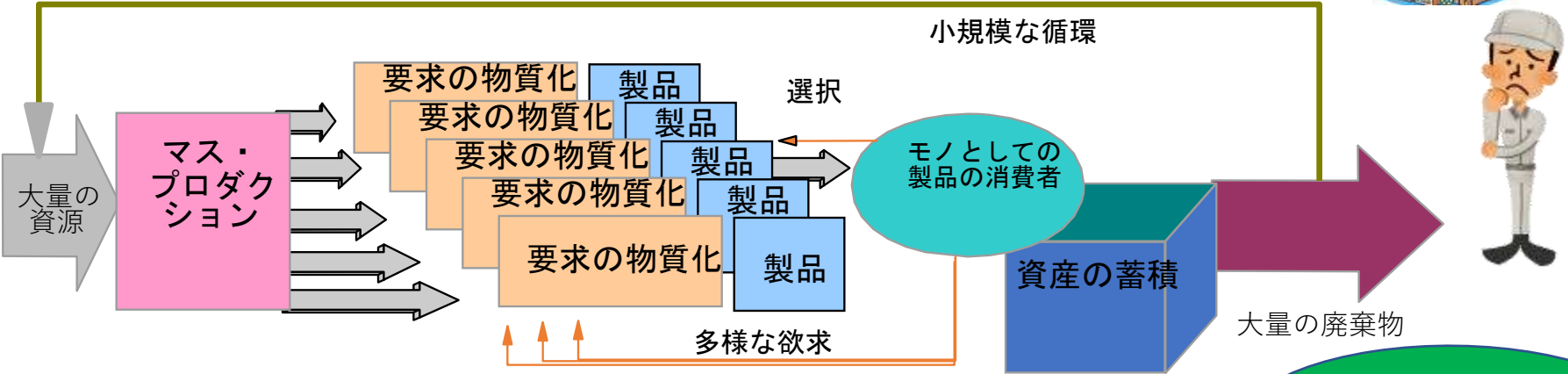
多様な個のカスタマイズに応える新ビジネス領域

製造業のB2CからB2B2Cへ

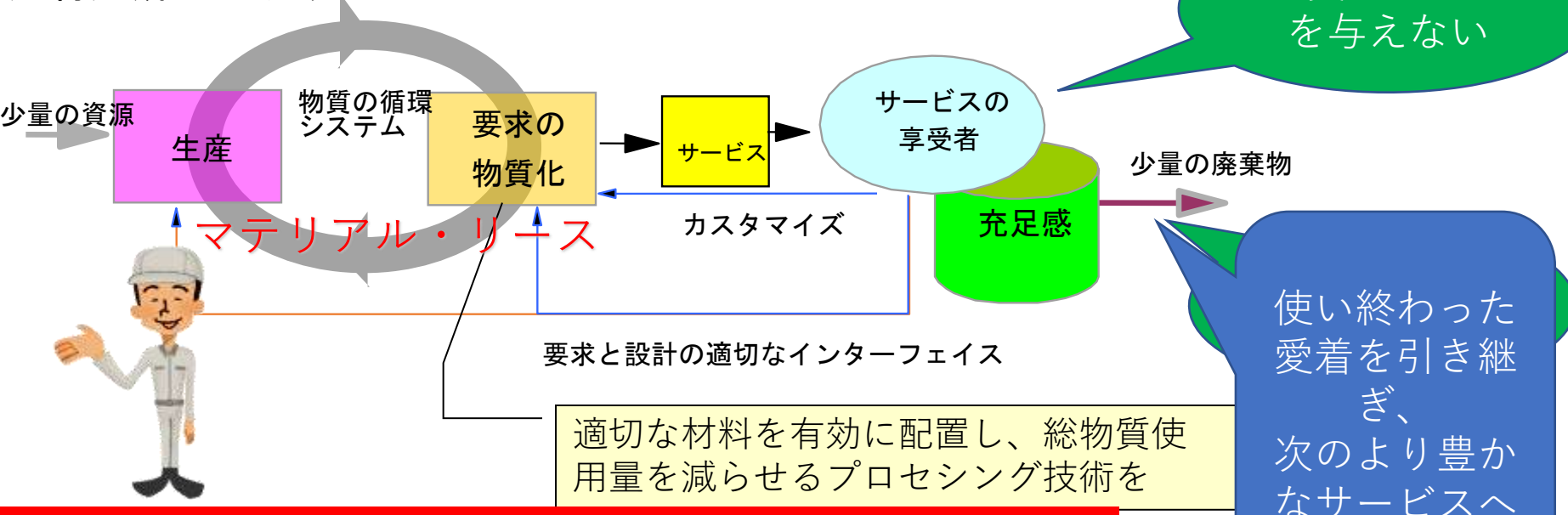


大量生産、大量消費、大量廃棄(循環)からの脱却

大量生産・大量消費・大量廃棄のマテリアルフロー



適材適所のマテリアルフロー



「リサイクルの究極の答えは消費者にモノを与えないコト」

CEビジネスが小規模にとどまる理由

- CE型プラットフォームの不在
CEビジネスの個別化

トレースするための情報でなく
つなぐための情報を活かす



- 本来ストックを大事にする発想なのに
フローとしての取り扱いの発想
有形の商資産化ができにくい
→無形資産のストックをいかにつくるか



- commons, 社会インフラに対する軽視
公共的投資、まちづくり領域での遅れ



フロー経済におけるストック経済の不利

番号	問題点の概要	内容の説明
①	減価償却による資産過小評価	帳簿上はゼロ評価でも、社会的には機能を維持している資産が評価されない
②	資産と収益の一致性の欠如	使用中の製品が収益を生み出しているにもかかわらず、売却されない限り資産として過小評価される
③	循環プロセスが「非効率」に見える	再生・再資源化プロセスのコストが追加費用とされ、利益を圧迫する構造になりがち
④	所有しない資産の活用が評価されない	社会全体で流通・活用されるストック資源の価値が会計に反映されにくい
⑤	外部便益（環境・社会価値）の不計上	廃棄物削減や持続可能性による価値が会計的には数値化されていない

更に、廃掃法で廃棄物となれば「貯めておく」ことができず、売りさばくしかない

欧州における都市型サーキュラーエコノミー事例

都市・地域	取組概要	主な特徴
アムステルダム（オランダ）	工業地帯を循環型地区へ再開発	再構成可能建築・エネルギー・水の地域循環
ラハティ（フィンランド）	EUグリーンキャピタルとしてCE都市ビジョン推進	モビリティ共有・資源アプリ・地域再生設計
グルノーブル（フランス）	市民参加型の生態都市づくり	エネルギー自治・共有型スペースの再設計
ヘント（ベルギー）	市民共有財としての空間利用推進	都市コモンズ・ツールライブラリ・市有地の無償提供

4つのcirculation(めぐり)で つながりの経済へ

- 必要なモノ のcirculation
 - 社会資本のcirculation (行きわたり、巡り)
 - データ・アイデアのcirculation (つながり)
 - 個人価値のcirculation (めぐり合い)
-
- CEでは「資源の循環」だけでなく、**使用価値の最大化**や**アクセスの共有**、**コミュニティとの関係性の再構築**など、物質に限らない価値の流れが重要
 - 「circulation」は本来、「循環」「流通」「周遊」など、動きと広がりを伴う概念。blood circulation（血液循環）だけでなく、book circulation（図書の貸出）、currency circulation（通貨の流通）、そして ideas in circulation（思想の共有）など、非物質的な意味での「回り・めぐり」の比喩的用法が一般的に使われている。

使いまわす

・物質基盤的サーキュレーション;

管理しストック化しやすいサプライチェーンscrap
の活用

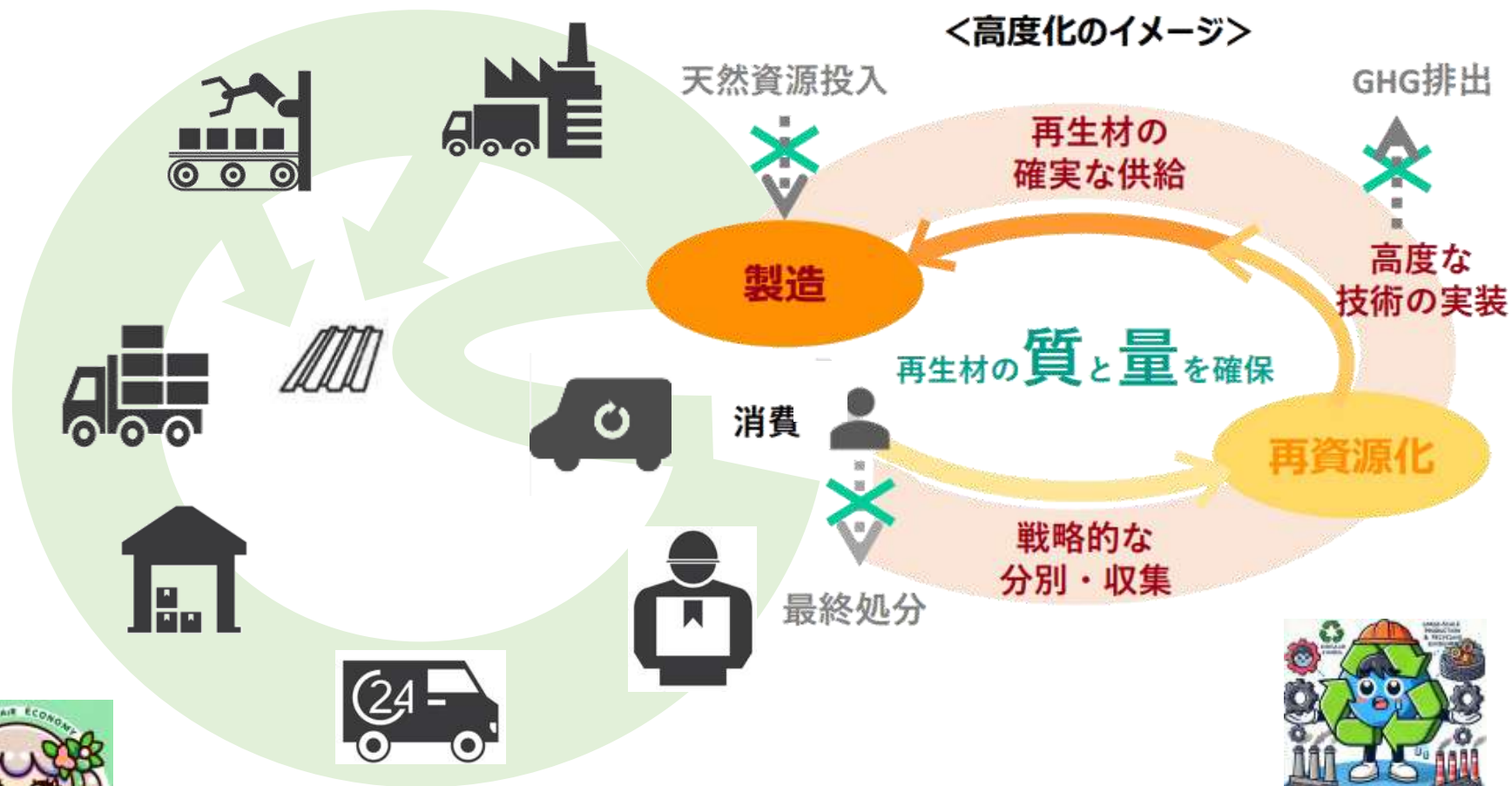
サプライチェーンscrap

加工scrap、非売物、自己回収システム

サプライチェーンマネージャーが計画性を持ちス
トック化



質を求めるならサプライチェーン管理scrapを



・社会基盤的サーキュレーション;

社会インフラとしての共有資産化

消費財の循環から

共有資産の共同使用へ

街づくり、家屋、さらには教育、介護
限られた資源を効果的に使う



つながる、共用する

- 情報(データ・アイデア)のサーキュレーション

個人や組織に閉じた所有から、
社会全体で価値を引き出し合う
共創的な流通への転換

アイデアやデータが使い回され、再解釈され、
価値が連鎖的に高まっていく



めぐりあう

- 使用価値のサーキュレーション;

使っている人の価値創造を助ける
モノを持つことだけが価値でなくなった時代

使いこなす喜び
つくる喜び
価値を共有する喜び

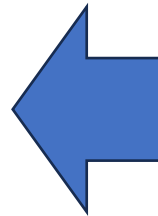
を組織できる企画



製品から残存価値を押し付ける
のではなく
価値を求めるヒトに残存価値のあるものを斡旋する



value matching

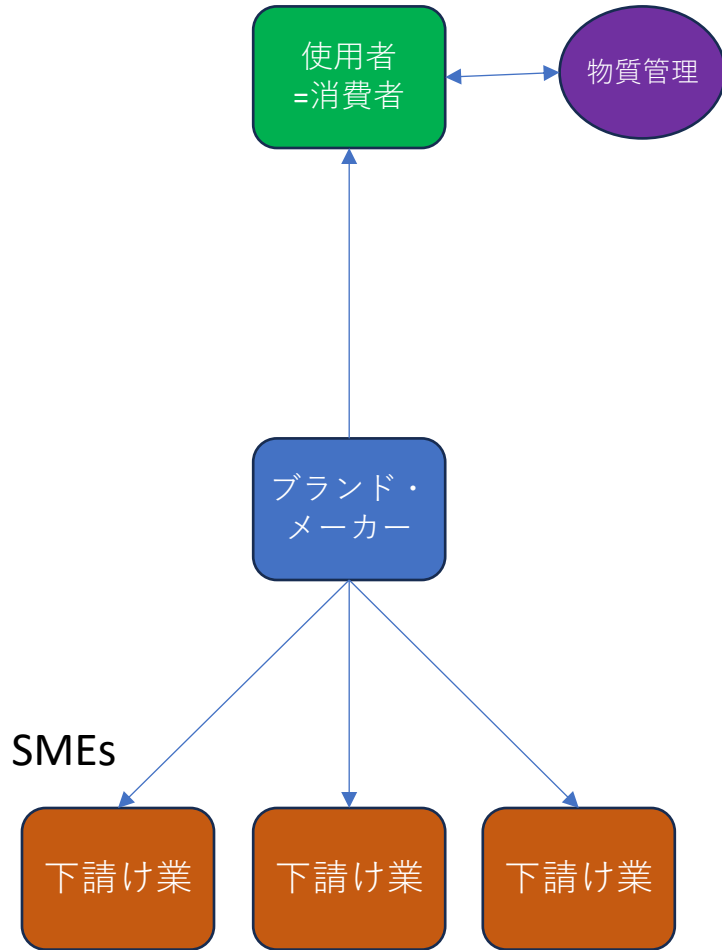


linear marketing

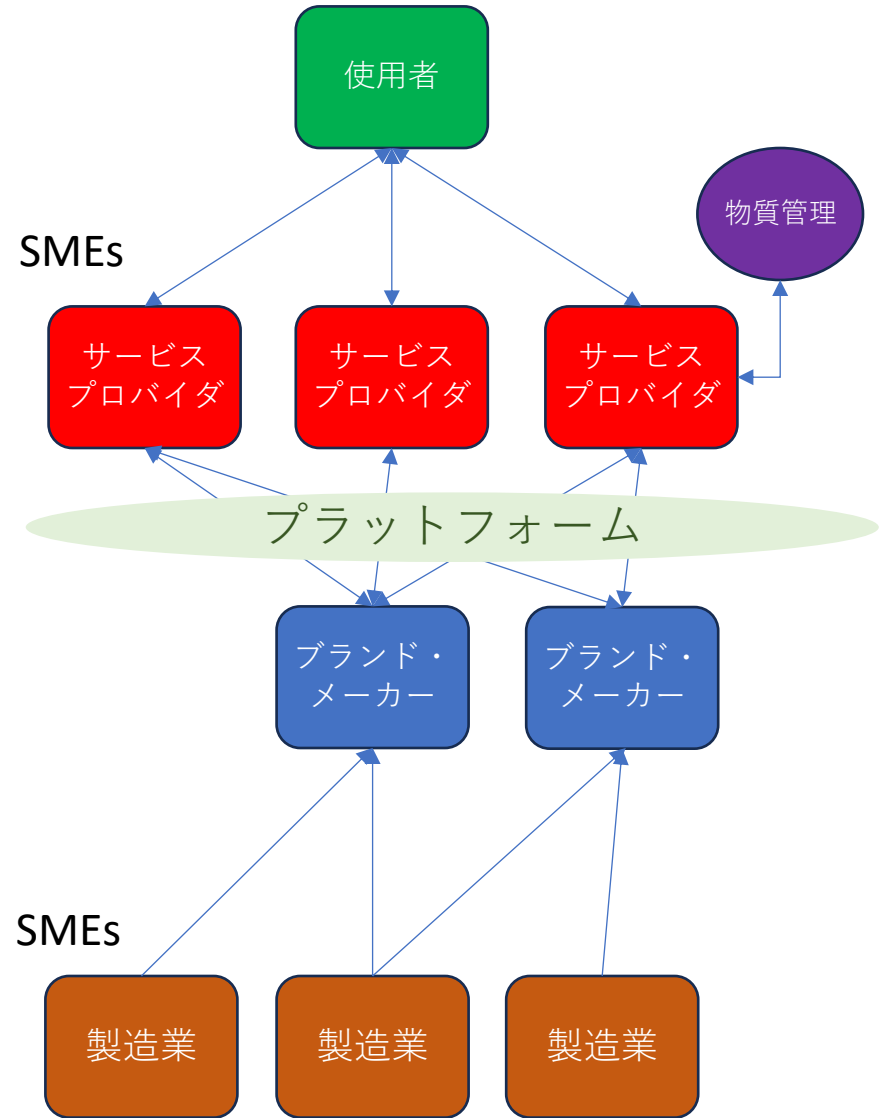


製造者は、「残存価値も製品のうち」としての設計を目指す

売切り
take-make-waste
社会構造



サーキュラー・エコノミー
社会構造



サーキュラーエコノミーの 新しい時代

